

第3期宇治市人口ビジョン（案）について

1 第2期宇治市人口ビジョンの状況

<第2期宇治市人口ビジョン策定以降の人口動態>

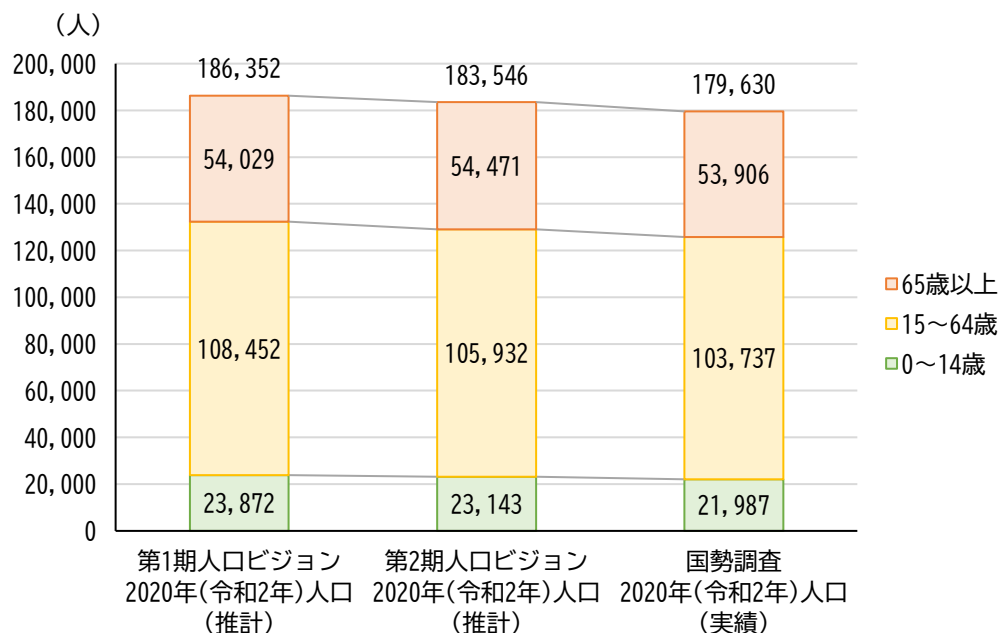
2020年（令和2年）以降の人口動態をみると、依然として人口減が続いているものの、生産年齢人口の減少率の低下、転入者数の増加や転出者数の減少、出生者数の大幅な減少の食い止め、合計特殊出生率が全国値を上回るなど、地方創生の取組の効果が一定、表れているものとも推測される。一方で、高齢者人口が減少に転じたことなど、これまででない傾向もみられている。また、年少人口は減少し続けており、当該ビジョン実現のための効果的な施策を定めていくことが必要である。

<人口ビジョンと国勢調査人口の比較>

2020年（令和2年）3月に策定した第2期宇治市人口ビジョンでは、社人研が2015年（平成27年）の国勢調査人口を基準として推計した値を基に、国の長期ビジョンに示された合計特殊出生率及び2020年（令和2年）に社会増減が0人になることを目標として推計している。

これまでの宇治市人口ビジョンと2020年（令和2年）の国勢調査人口を比較すると、本市の2020年（令和2年）人口は、人口ビジョンを下回っている。

図 1-1 2020年（令和2年）の宇治市人口の比較



出典：総務省「国勢調査」
注）国勢調査の各年齢人口は不詳補完値。

2 人口動態に関する目標

(1) 合計特殊出生率

2019年（令和元年）の国の長期ビジョンにおいては、2060年（令和42年）に1億人程度の人口を維持するために必要な合計特殊出生率は、2020年（令和2年）に1.60、2030年（令和12年）に1.80、2040年（令和22年）以降は人口が長期的に増減しない水準である2.07と仮定している。

本市では、2040年（令和22年）以降、人口水準を維持するため、国の長期ビジョンにおいて示された合計特殊出生率を直線的に補完した値を目標とする。

表 2-1 合計特殊出生率

	2020年 (令和2年)	2025年 (令和7年)	2030年 (令和12年)	2035年 (令和17年)	2040年 (令和22年)	2045年 (令和27年)	2050年 (令和32年)	2055年 (令和37年)	2060年 (令和42年)
国の長期ビジョン	1.60 (1.33)	—	1.80	—	2.07	2.07	2.07	2.07	2.07
第2期宇治市人口ビジョン	1.60 (1.35)	1.70	1.80	1.94	2.07	2.07	2.07	2.07	2.07
第3期宇治市人口ビジョン	1.35	1.53	1.71	1.89	2.07	2.07	2.07	2.07	2.07

※括弧内は実績値。

出典：(2020年（令和2年）実績値) 厚生労働省「人口動態保健所・市区町村別統計」

(2) 社会増減

本市の社会増減の減少幅が改善してきている現状を踏まえ、引き続き地方創生に寄与する施策を推進していくことで、2025年（令和7年）以降、社会増減を0人とすることを目標とする。

(3) 人口減少の対応

人口減少への対応は、出生率を向上させることにより、人口の自然増を図ることが考えられるが、出生率の向上を図っても、今後、数十年間の人口減少は避けられない状況にある。社会移動の割合が高い20歳代と30歳代をターゲットに転出超過の解消及び転入超過の増大に向けた効果的・効率的な施策を実施していく必要がある。あわせて、この世代は子育て世代でもあると考えられることから、若年人口の増加につなげ、定住促進を図っていく必要がある。

3 将来展望

合計特殊出生率や社会増減の目標を踏まえ、2020年（令和2年）の国勢調査人口を基に推計すると、本市の人口は2060年（令和42年）に14万1,798人、2070年（令和52年）に13万1,398人となる。第3期宇治市人口ビジョンでは、この値を目標として施策を推進していく。

第2期宇治市人口ビジョンでは、2060年（令和42年）の人口を15万786人とすることを目標としており、今回の推計の2060年（令和42年）人口と比較すると8,988人減少することとなるが、その要因は、推計の基礎としている2020年（令和2年）の国勢調査人口が第2期人口ビジョンの値と比較して減少したことによるものである。

なお、人口ビジョンにおいて目標とする人口は、本創生総合戦略に掲げる施策の実施により目指す人口であり、今後の市の各種計画等で採用する人口推計とは異なる場合がある。

図 3-1 第3期宇治市人口ビジョン

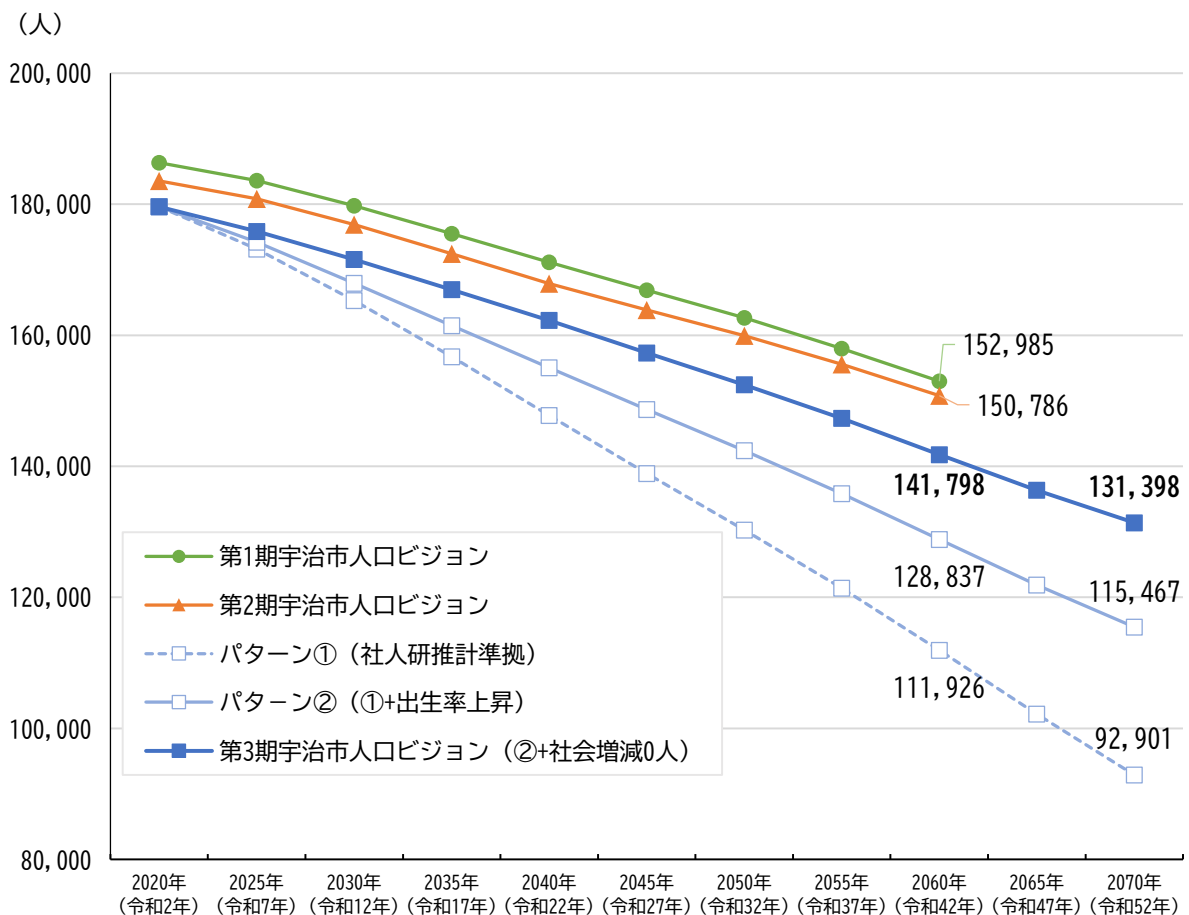


表 3-1 人口推計の手法

宇治市人口ビジョン		人口推計の仮定条件	
第 1 期人口ビジョン	【出生率】	国の長期ビジョンで示された合計特殊出生率の仮定と同じ。 2020 年(令和 2 年)=1.60、2030 年(令和 12 年)=1.80、 2040 年(令和 22 年)=2.07	
	【社会移動】	2020 年(令和元年)に社会減が解消し、それ以降は社会増減が 0 人と仮定。	
第 2 期人口ビジョン	【出生率】	国の長期ビジョン (2019 年(令和元年)改訂版) で示された合計特殊出生率の仮定と同じ。 2030 年(令和 12 年)=1.80、2040 年(令和 22 年)=2.07	
	【社会移動】	第 1 期人口ビジョンの仮定条件と同じ。	
第 3 期人口推計	パターン① (社人研推計準拠)	【出生率】	社人研推計に準拠。 ※2030 年 (令和 12 年) ≒1.30、2040 年 (令和 22 年) ≒1.34
		【社会移動】	社人研推計に準拠。 ※過去の純移動数をもとに推計。
	パターン② (①+出生率上昇)	【出生率】	国の長期ビジョンで示された合計特殊出生率 2.07 を 2040 年に達成。以後 2.07 を継続。 2020 年(令和 2 年)=1.35、2030 年(令和 12 年)=1.71、 2040 年(令和 22 年)=2.07
		【社会移動】	パターン①の仮定条件と同じ。
	パターン③ (②+社会増減 0 人) →第 3 期人口ビジョン	【出生率】	パターン②の仮定条件と同じ。
		【社会移動】	2025 年 (令和 7 年) に社会減が解消し、それ以降は社会増減が 0 人と仮定。

表 3-2 推計結果

	(人)						
	2020 年 (令和 2 年)	2025 年 (令和 7 年)	2030 年 (令和 12 年)	2040 年 (令和 22 年)	2050 年 (令和 32 年)	2060 年 (令和 42 年)	2070 年 (令和 52 年)
第 1 期人口ビジョン	186,352	183,636	179,782	171,151	162,666	152,985	—
第 2 期人口ビジョン	183,546	180,837	176,917	167,893	159,938	150,786	—
パターン① (社人研推計準拠)	179,630	173,162	165,299	147,778	130,287	111,926	92,901
パターン② (①+出生率上昇)	179,630	174,218	167,951	155,061	142,415	128,837	115,467
第 3 期人口ビジョン (②+社会増減 0 人)	179,630	175,851	171,575	162,287	152,454	141,798	131,398

図 3-2 2020 年（令和 2 年）国勢調査人口の年代別構成

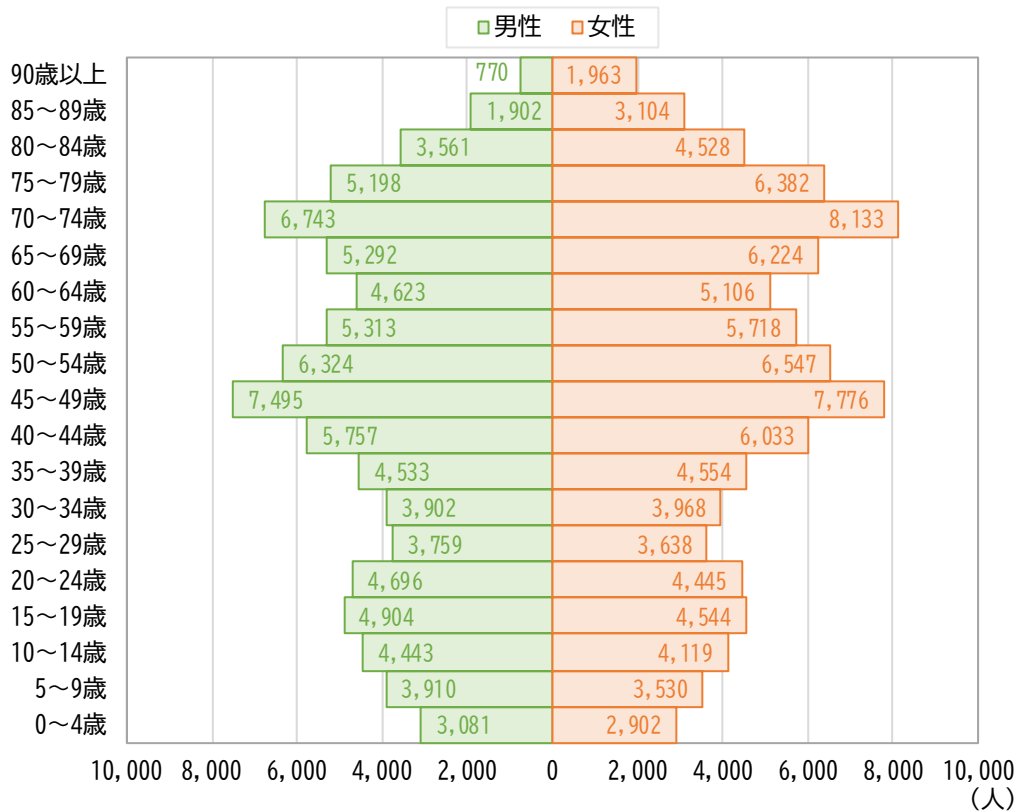


図 3-3 第 3 期宇治市人口ビジョンの 2070 年（令和 52 年）の年代別構成

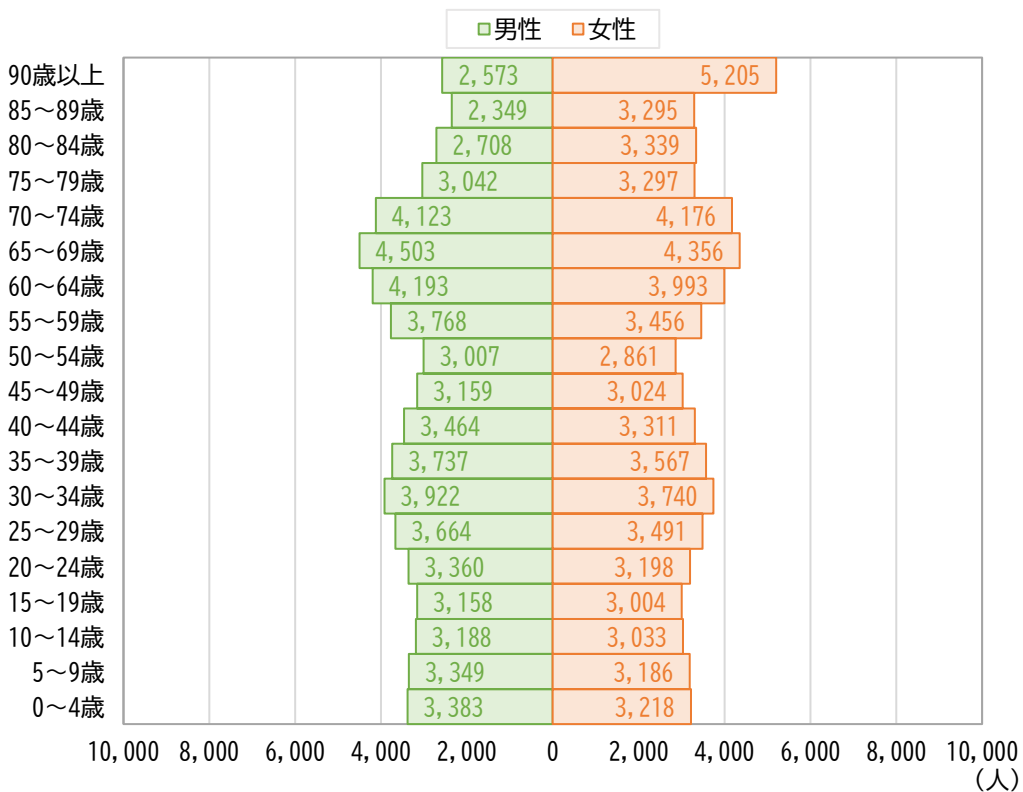


図 3-4 第 3 期宇治市人口ビジョンにおける年齢 3 区分別人口

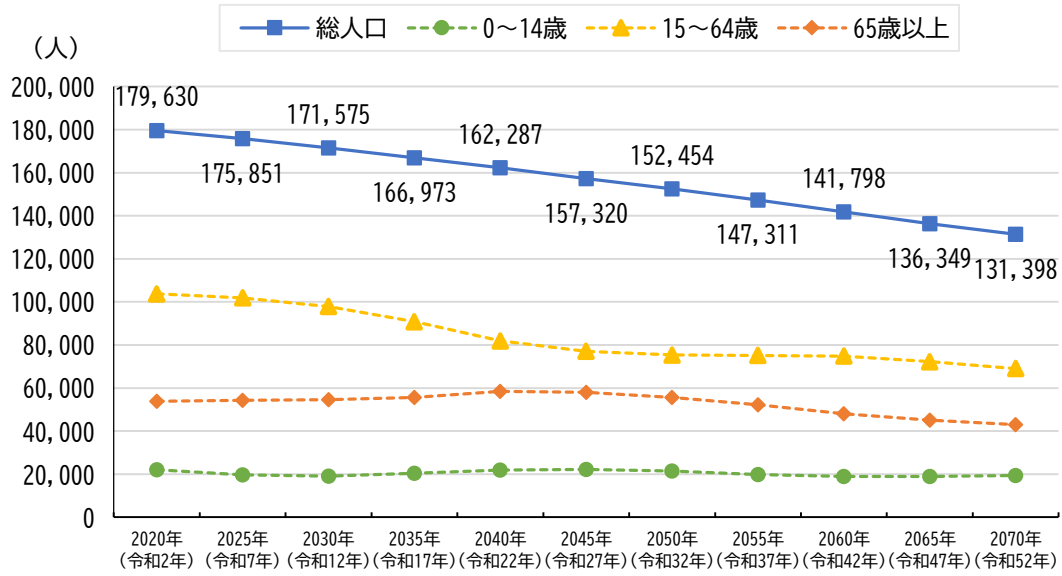


図 3-5 第 3 期宇治市人口ビジョンにおける年齢 3 区分別人口割合

